

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人 静巖堂医院		
事業所名	グループホーム 好日庵		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13番地		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2374000384-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人を育てる事を大切にし、独自に作成した「人材育成達成度チェック表」を活用して、個々の職員が自分のできること・できないことに気づき、把握をして、自ら課題やテーマを持ってレベルアップを目指し取り組むことができるよう環境作りを行なっている。
入居され御家族と離れて生活しておられる状態であっても、家族の方々との繋がりが稀薄にならないよう、協力して支援をしている。
在宅で認知症の方を介護されているご家族の力になるよう、認知症カフェやデイサービス、ショートステイを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、毎日の申し送りの時間を通じて、職員間でミーティングの時間をつくっている。利用者に関する気づき等について、職員間で日常的に意見交換と情報の共有を行いながら、利用者一人ひとりの意向等に合わせた支援につなげている。地域の方とも、母体が医療機関である利点も活かしながら、ホームからの働きかけを通じて、カフェや食事会をはじめ、講習会等の取り組みが行われている。運営推進会議についても、様々な分野の方に参加を呼び掛けており、出席者との情報交換やホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、今年度より、ホーム管理者が交代しており、前管理者は顧問として引き続きホームに関わる新たな体制に移行している。新たな体制のもとで、新たに小学校の連携を深める取り組みが行われており、地域貢献につながる活動が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者様が社会の一員であり続けられることを大切に理念を作り、常に意識して実践につなげている	職員一人ひとりがホーム理念を共有しながら、目標を持って理念の実践につなげる取り組みが行われている。職員は自己評価を通じて目標達成度をチェックし、理念の内容を振り返る取り組みも行われている。また、事務室内への掲示も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	防災訓練、食べまい会、地域や学校行事に参加し交流したり、回覧板の受け渡しをしている。また事業所主催のカフェや日帰り旅行に地域の方々が加わるようになり交流を広げている	ホームは、関連事業所とも連携しながら地域貢献活動に前向きに取り組んでおり、毎月のカフェや食事会の他にも、小学校との関わりも行われている。また、前管理者が顧問として関わるようになったことで、地域の方に向けた活動がし易くなっている。	ホームの職員体制を変更したことで、より積極的な地域への参加につなげている。地域の方に向けた様々な取り組みは、顧問の長年の思いでもあり、今後の活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事やカフェなど、認知症の方々と接し、コミュニケーションや行動から理解して頂けるよう関わりを深めている。カフェでは介護相談や、介護家族同士が自由に話し合える場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し、当ホームでの取り組みや様子などを報告している。また意見交換も出来ており地域などの取り組みの向上に生かしている。	様々な分野の方に出席を働きかけ、地域の方や市内の他のグループホームの方との情報交換の機会にもつながっている。また、家族には交代で参加してもらうように働きかけており、家族との交流にも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	顧問や管理者は、家族会や運営推進会議を報告し、相談や意見交換など行い協力関係を築くよう取り組んでいる。また顧問は介護指導者研修を終了し、今後のケアサービスの為尽力している。	市内の介護事業所が集まる連絡会等に参加しており、情報交換等の機会をつくっている。また、様々な機会を通じてホームからも働きかけを行いながら、市担当部署との関係づくりや講習会等の関わりが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルが作成しており、常に身体拘束される側の気持ちを考えたり、身体拘束をしないケアの大切さを学んでいる。安全確保できず、やむを得ない場合には家族の同意を得ている。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は開放的な雰囲気をつくっており、職員間で利用者一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいる。また、ホームで研修会の取り組みを行っており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修参加や報道をもとに話し合い、防止に努めている。身体面はもちろんのこと、精神面においても注意を払い防止に努めている。また、職員がストレスをためないようなケアの在り方も話し合われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	情報誌や研修から学ぶ機会があり、理解するよう努力している。必要に応じて、家族と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時や契約内容が変更された時などには十分な説明を行い、承諾を頂いている。また、担当者会議や家族会で話し合いを行なったうえで、意見や要望を伺い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時や家族会で率直な意見や要望を聞き運営に活かしている。	ホームの行事の際には、家族にも参加を呼び掛けており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他、顧問も対応する体制がつけられている。また、利用者毎の細かな状況等を記載した毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケアだけでなくとどまらず、レセプトや経理等に職員が携わることで関心を持ち、行事や会議に参加することで理解し、運営にかかわる環境作りをしている。	毎日の申し送りの時間に職員間でミーティングを行っており、日常的に意見交換を行う取り組みが行われている。管理者が把握した職員に関する気付き等は顧問にも報告され、ホーム運営への反映につなげている。また、院長による個別面談も続けられている。	今年度より、管理者が交代したことで、新たな体制に移行している。職員間での意見交換を行いながら、より良いホームの実現につながることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人に合った研修を選択し、参加している。また、管理者やリーダーといつでも相談できる環境であり、年一回の代表者との面談や顧問から一年を通しての評価やアドバイスをこなしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「人材育成達成度チェック表」があり、個人評価や達成度が分かり職務に就くことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	東三河グループホーム連絡協議会に所属し、会議・勉強会・研修に参加している。また、特定の職員に限ることなく近隣施設の行事や運営推進会議に参加し、交流を深める取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の言葉から察したり表情を観察し、その人の立場になって接しコミュニケーションを心掛け、信頼関係を作り安心して暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の気持ちを十分に理解することに心がけ、不安や心配事に耳を傾け、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時の情報や入所初期は特に様子を見ながら必要とされる支援に努めている。また、他職種との連携を行い適切な支援をできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者様は共に生活していく一人として、仲間として、『一緒に』をキーワードに過ごし支え合う関係が保てるよう大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方が面会に来やすい環境を整え、職員とのコミュニケーションをとり、協力して支援を行なうことができる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人が訪設されたり、お彼岸、お盆、結婚式などの季節行事に出かけ、なじみの知人等に出会い、今までの生活も大切にできるよう支援している。	ホーム建物の1階が医療機関でもあるため、受診を通じて利用者の馴染みの関係の方と交流につながることもある。利用者の中には、行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族と懐かしい場所に出掛ける取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係を把握し、一人一人が安心して過ごせるよう表情に気を配り、不安のないよう言葉かけの支援をしている。また、過剰な介入はせず大人同士の支え合いができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	近隣の方の利用が多いため、契約が終了した後も、地域行事で会う機会や法人内の診療所を利用している家族もあり、関係性を継続できる環境にある為、相談や支援を行なうことができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3ヶ月ごとのモニタリングやセンター方式の活用をしているため、日々の会話から本人の思いを聞いたり、表情から伺える様子から職員同士情報交換をし、共有して検討することに努めている。	職員間で連携しながら利用者に関する把握が行われており、毎日の申し送りを通じたミーティングの中で、利用者の意向等に関する意見交換が行われている。また、センター方式を活用したアセスメントを実施しており、細かな把握が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係者の方々から情報を得ることで把握に努めている。また、センター方式を使用しアセスメントを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の記録やバイタルチェックでの健康の記録から、職員間の情報の共有に努めたり、気づいたことを毎朝のミーティングで情報交換をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、担当者会議の内容を活かした介護計画の実践を、ケアプラン実施表でチェックしている。また、ケアプラン実施表は1か月ごと振り返り、職員が現状と照らし合わせ、意見を出し反映されている。	介護計画の見直しは1年となっているが、毎日の職員間での情報交換の中で利用者の変化を把握しており、細かな介護計画の見直しも行われている。また、介護計画の内容は日常的な記録にも反映させており、3か月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日介護記録はケアに基づき記録したり生活していく上でありのままを記入し、気づきや工夫は朝のショートミーティング等で取り上げ実践につなげている。ケアチェック表はケアマネが確認することで介護計画の見直しに活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当ホームは医療法人の3階部分にあり、同一建物内に利用者様のかかりつけ医やリハビリテーション科、デイケアセンター等があり必要時には利用できる。その他ニーズに応じ対応できる状態にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事(川掃除、学校行事、防災訓練など)が普通の生活の一部になっている。近隣へ外出や地域の方・小学校の児童の訪設などもあり、フォーマル、インフォーマルを問わず活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームは内科診療所に併設しており、定期的及び必要時に受診している。また、本人のみならず家族の方のかかりつけ医にもなっており、良い関係を築いている。歯科医にも定期的に受診や相談にも対応して頂いている。	ホーム建物の1階の医療機関より、医師による利用者の健康チェックや急変時等の対応が柔軟に行われている。また、看護師についてもホームに職員として配置している他にも、顧問が看護師でもあるため、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設している診療所の看護師と、常に相談できる体制にある。また、当ホームの顧問が看護師であり、随時症状を伝え相談することができる。夜間も併設の病棟に看護師が常駐しており、即、連絡がとれる状態にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当グループホームは医療法人内にあり、必要に応じてリハビリや医療を受けられる状態にある。他の病院等で手術や入院後も受け入れる体制が整っており早期退院が望める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人や家族から要望を聞いている。重度化、終末期になるとかかりつけ医、ご家族、ケアマネジャー、職員等で担当者会議を開催し、ご本人やご家族の要望にできる限り沿うことができるよう努めている。	ホームでの看取り支援にも取り組んでおり、院長や看護師による医療面での支援も行いながら、看取り支援が行われている。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが行われており、ホームの対応に関する話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	医療法人内でAEDの使用方法や人工呼吸の訓練を定期的に行い職員は参加している。また、資料や研修等でも学び、力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の防災訓練や法人内の防災訓練などでは、あらゆる場合を想定し取り組んでいる。また、備蓄品のチェック、非常持ち出し品等の備え、非常食や飲料水の用意もできている。災害時には地域住民の協力が得られる体制が整っている。	法人内に災害対策委員会が組織されており、関連の事業所とも連携しながら、合同の避難訓練の実施が行われている。毎月1日を「非常食を作る日」としており、非常時に備えている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄が行われている。	関連事業所とも連携しながら、医療機関でもあるため、非常災害時における地域の方の受け入れについても想定している。地域の方との継続した関係づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや言葉づかいに配慮し対応している。尊厳やプライバシーにおいては日頃からミーティング等で取り上げ、職員が再確認する場を設けている。	職員一人ひとりが理念、ウェイの内容を定期的に振り返りながら、利用者への尊重につなげるような取り組みが行われている。また、職員で利用者に対する対応等に関するチェックを行っており、接遇面での振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様一人ひとりに合わせて対応を行っている。思いをうまく表現できない利用者様に対しては、できる限りその方の思いを理解しようと努め、コミュニケーション技術を学んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れがある中で、利用者様のペースで思い思いに過ごされる時間を大切にできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけの美容院へ定期的に出向いたり、自分好みの化粧品を使用している。好みの服を選んだり選べない方にはその方に合った衣服が着用出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成や買い物、食事の準備や片付けまで職員と一緒に取り組んでいる。皆で味見をし、その人の好みや食べやすい形状の把握にも努めている。	メニューを職員で考えており、利用者の好みや嗜好に合わせた取り組みが行われている。利用者も出来る事に参加しており、買い物、調理、片付け等が行われている。また、おやつ作りや行事に合わせた食事の取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人ひとりの現在の状態をしっかり把握し、食事量や形態、水分量を摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを声掛けや一部介助などで支援している。また、義歯は夜間消毒液に浸けたり定期的に歯科医の検診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの状態に合った排泄用品を使用し、排泄パターンを職員は把握し、誘導や声掛け支援を行い失敗することで自尊心を傷つけないよう努めている。	利用者全員の排泄記録を残している他にも、利用者により、その方に合わせたチェックも行われている。また、申し送りの時間に行われているミーティングを通じて、その方に合わせた排泄支援の検討が行われており、利用者により、排泄状態が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取や食事の工夫で対応している。また、パターンを把握し排便記録の確認により、腹圧をかけられるような支援やマッサージなどで自然排便を促す努力をしている。場合によっては整腸剤や食物繊維剤を使用し便秘の予防を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は概ね決まっているが、状況に合わせていつでも入浴できる支援を行なっている。また、自然の薬草を使用し、入浴時の保湿や香りを楽しめる支援をしている。	入浴については、1日おきの週3回行われており、時間も午後に行われている。身体状態に合わせて職員2名での対応も行われている。また、季節に合わせた入浴の他にも、温泉の湯を汲みに行き、浴槽に入れる楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりに合った室温や寝具の調節に配慮している。また、利用者様の表情や行動から察し休息できる支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や処方された服薬説明書には職員全員が目を通し、薬の理解に努めている。症状の変化から副作用について、かかりつけ医に伝える支援も行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様一人ひとりの情報や言動から、その方に合った役割、楽しみの把握に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月のお楽しみ会での外出、お花見や紅葉狩り等の季節を感じられる外出支援をしている。日頃の散歩や買い物の支援に合わせ、歩行が困難な利用者様には車いす対応の車両でドライブに出かける支援を行なっている。家族の協力も得られ一緒に外出することもある。	日常的に外出の機会をつくっており、ホーム周辺への散歩をはじめ、買い物にも出かけている。季節に合わせた花見や紅葉等の外出の他にも、市内の温泉施設の足湯を楽しむこともある。また、利用者の希望に合わせた個別外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はホームで管理しているが、小銭を自分で持っている方もいる。買い物には個人の財布を持ち、欲しい物を買っている。また、受診時には支払い、残高確認を一緒にし、お金に触れる機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次いだり本人が家族と連絡を取りたいときには支援している。本人が本人の言葉で話しているが、うまく伝わらないときには職員が介入している。今後手紙を書き、出す支援に努めたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	観葉植物や季節の花が生けられている。共用の空間は全体に広く作られており、テレビや空調にもその時に合った配慮を行なっている。リビングや居室からは季節を感じられる景色を楽しむことができ、利用者様方の声や生活音を聞きながら過ごせるようになっている。	リビングはゆったりとした広さが確保されている他にも、採光にも優れた環境である。広いテラスがあることで、季節に良い時期には利用者と過ごすことができる。また、ホーム内に様々な鉢植えが置かれたり、通路の壁には作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有のリビングにはソファや椅子が多く、他の空間にも所々にソファや椅子を置いている。たたみのスペースもあり、その時々で過ごせる居場所作りに心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具、衣服や本、化粧品など本人の好みのもを置いて生活している。家族の写真を飾ったり、何でも持ち込むことができ、今までの生活を継続できるよう支援している。	居室には、収納スペースが設置されてあることで、居室内を広く活用することができる。利用者により、入居前からの馴染みの物等の持ち込みが行われている。また、家族の写真や趣味の物を飾る等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入口にはご本人がわかりやすい表札、トイレの扉は明るい色で統一し数多く設置されている。通路には手すり、その方に合った形状のベッド柵を使用する等の工夫を行ない、その都度、理解できるよう声掛けを行なっている。		